

本社前

倉持産業株式会社 代表取締役 倉持一彦氏

倉持産業 株式会社

代表取締役 倉持 一彦氏

■会社概要

本社・水海道 GP センター：茨城県常総市菅生町 683-1
 茨城GPセンター・茨城農場：茨城県東茨城郡茨城町宮ヶ崎1553
 設立：昭和36年8月
 資本金：3,000万円
 従業員：110名
 事業内容：飼料部：配合飼料、動物薬品、畜産器具機材販売
 鶏卵部：各種鶏卵、液卵、凍結卵生産販売
 省エネ・環境改善提案部
 ：省エネ機器各種販売、包括的エネルギーサービスコンサルティング業務等

今回の「企業探訪」は、倉持産業(株)代表取締役 倉持一彦様にお話を伺いました。

常総市に本社を置く当社は、配合飼料の取り扱いや各種鶏卵（ハラル認証^{※1}）の生産、環境に配慮した取組みや省エネ機器の販売等幅広い事業を展開しています。

倉持社長は常に、「地域に恩返し」という熱い思いを持ちながら日々の業務を進めているそうです。また、社員とのコミュニケーションを積極的に取ることによって、社員が働きやすい職場づくりを進めています。インタビューでは、事業拡大のプロセスや今後の事業戦略等についてお話を伺いました。

（※1 P.5を参照）

社長様の父・前社長（現会長）は、昭和36年8月に鶏卵や配合飼料等の販売を開始し、昭和40年5月に、現 倉持産業(株)の前身となる(有)倉持新一商店を設立しました。

その後、様々な事業を展開され、今年で創業から53年目を迎えています。これまでの貴社の事業拡大のプロセス等をお聞かせください。

①創業について

当社の前身は、私の父・新一が昭和40年に水海道（当時）創業した「倉持新一商店」です。

それまで父は、都内の精肉店に勤めていました。そこで肉と一緒に、家の裏で飼育していた鶏の卵

を店頭に並べ、販売を始めたのがきっかけです。昭和30代当時、卵は馴染みが薄く、高級品でした。その卵を多くの人に味わってほしい、という思いがあったのです。

また同時期に、親類が配合飼料の販売を始めていました。そこで、昭和40年に2つの事業を合体し、(有)倉持新一商店を設立。現在の事業形態の基礎が出来上がりました。

②独自の養鶏事業のスタイルを確立

その後、昔からの付き合いがある「農家養鶏」（100羽/軒）と、茨城県内に次々と立地した「企業養鶏」（1~3万羽/社）との取引を進めていきました。昭和40年代は、卵の需要期。「作れば売れる」という時代です。取引先に飼料を販売し、生産された卵を引き取り販売するという事業を進めていきました。

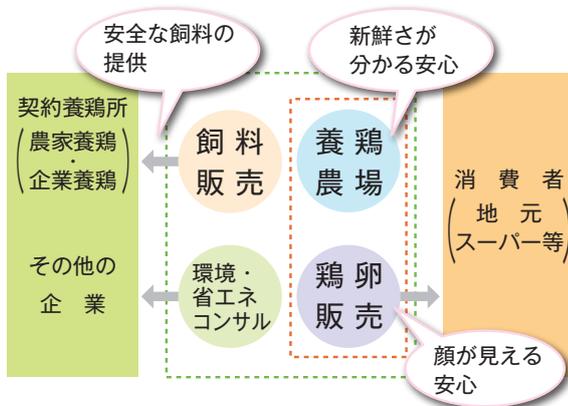
大規模な養鶏事業を行う契機となったのは、昭和55年に、現在の茨城農場にほど近い場所にある養鶏場（約6万羽）を譲り受けたことです。獣医や地元の方に手伝って頂きながら、事業の安定に努めました。

平成3年に、北浦町（現 行方市）へ全養鶏機能を移転し、新たに鶏15万羽を飼育する農場、そして鶏卵加工場（GPセンター Grading&Packing）を新設しました。当時、農場と鶏卵場が併設している形態は大変珍しいものでした。（図1）この



本社・水海道GPセンターの航空写真

新しい事業スタイルは、お客様へ「安全・安心」をアピールする事が出来ました。その結果、販売数も右肩上がりとなりました。



■図1 倉持産業(株)の事業概要図

その後、平成11年に茨城町へ再度移転し、38万羽を飼育するウインドレス鶏舎と鶏卵工場・GP (= Grading〈選別〉とPacking〈包装〉)センターを新設しました。平成16年からは、2万羽を飼育する平飼い鶏舎を導入し、現在では、40万羽を飼育しています。

③顔の見える営業

当社は、地元水海道で創業して、半世紀以上が経過しました。地元で生きる企業として、いつも地域に感謝の気持ちを持ちながら事業を行いたいと考えています。

その中で、大手企業には出来ないきめ細やかな対応、そして「顔の見える営業」を大切にしています。特に地元スーパーへの営業は熱心に行ってきました。

当社の社風は、「正直で縁を大切にする、人に優しい会社」です。お取引様、そして社員を大切にしている心が、前社長から私に引き継がれていると自負しています。

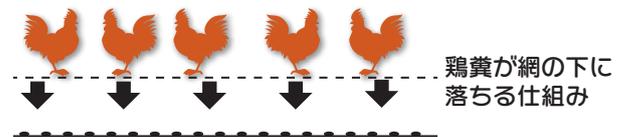
貴社は、「平飼たまご」、「温泉たまご」、「液卵」等が主力商品となっておりますが、各製品の特徴等をお聞かせください。

①平飼いたまご

平飼いは、鶏の飼育方法の一つで、鶏舎内を自由に動き回れるよう、放し飼いにする方法です。フランスやオランダ等、主にヨーロッパで普及しています。西欧では、動物福祉 (Animal Welfare) の観点から、ケージ飼いは法律で禁止されています。ストレスが少ない鶏は、健康で美味しい卵を産んでくれます。私は、ヨーロッパへ研修に行った際この飼育方法に可能性を感じ、導入することにしました。

平飼いたまごの値段は、ケージ飼いの1.5倍程度と割高となります。しかし、鶏がイキイキと卵を産んでくれる姿に感動します。そして、味がとても美味しいのです。

当社の平飼い鶏舎は、二重構造になっています。鶏糞が網の下に落ちる仕組みです。網が地面から離れているため、鶏・卵と排泄物の接触を防ぎ、いつも清潔な飼育環境を保つことができます。(図2)



■図2 平飼いの飼育環境イメージ

国内では、当社が一早く平飼いを導入しました。最近では、他の企業からの視察も受け入れています。

また、主力のウインドレス鶏舎は、動物福祉の観点から、現在の60cm×50cm (6~7羽/マス) から2m×4m (120~160羽/マス) に広げ、鶏の飼育環境の改善に努めていこうと考えています。正直、設備投資のコストはかかります。しかし、ストレスの少ない健康な鶏は、卵の生産量も多くなり、コストは±0になると試算しています。

②温泉たまご

当社の主力商品である「温泉たまご」は、月に80t・150万個生産しています。衛生管理や品質管理の観点から、蒸気を使って製造しています。当社の温泉たまごは、白身も黄身も柔らかいのが自慢です。最近では、調理方法の幅も広がり、レストラン等で料理のトッピングとしても使用されることが多くなりました。今後は、一般家庭用だけでなく、業務用としても需要が見込める商品となっています。



とろ〜り美味しい「温泉たまご」

③液卵

液卵は、ケーキやお菓子、厚焼き卵等の加工品に使用します。多様な働き方が広がる現代では、食卓に加工食品が並ぶ機会が多くなっています。一方で、液卵を供給出来る企業は少ないのが現状です。このような背景から、今後当社では、需要が見込まれる液卵事業を拡大していこうと考えています。

具体的には、坂東市に新たに液卵工場を建設する予定です。規模は、現加工場の2倍です。導入予定の機械は、現在より高い殺菌能力を備えています。それによって、液卵の品質保持期間を1週間延ばすことが出来るようになります。工場内は、より衛生基準のレベルを高め、大手取引先の厳しい基準もクリア出来るようにする予定です。



「液卵」

貴社の環境対策の取組み等をお聞かせください。

①環境対策を通して「地域へ恩返し」

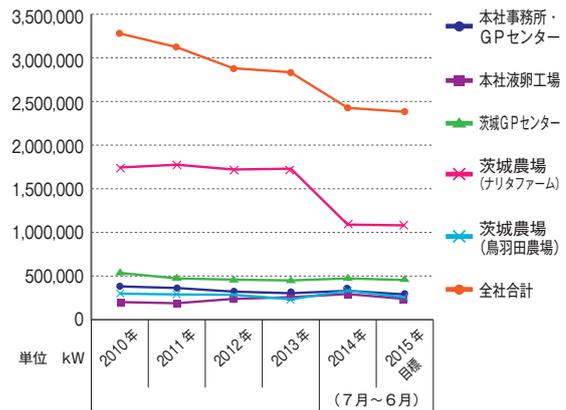
創業当初から養鶏業を営んでいた当社は、臭いや排水等で、地域の皆様や周辺環境に大変ご迷惑をお掛けしてきました。そこで、「地域に恩返しをしたい」という思いから、平成22年に省エネ・環境改善提案部を立ち上げました。

当部署では、「省エネ・環境改善事業計画」を策定しました。その計画に沿って、中長期的な視点で、社内の環境改善に取り組んでいます。

平成22年から、デマンド監視システムを導入し、電力ピークカットを進めて来ました。過去5年間の電気使用量は、全社で毎年減少しており、コストカットに繋がっています。(図3)



省エネ・環境改善部 中田氏(写真右)



■図3 過去5年間の電力使用量の推移グラフ

出典:倉持産業(株)

また、茨城県生活環境部が主催する「いばらきエコチャレンジ」(事業所部門)省エネ・ピークカット部門では、平成23年から連続2回にわたり最優秀賞等をいただくことが出来ました。

また当社は、鶏卵加工場の衛生環境を保つため、様々な機器を導入しています。空気清浄機もその一つです。これは、工場内のウイルスやカビの防止だけでなく、従業員の健康管理にも役立っています。



清潔な施設に豊かな心のスタッフ

②環境ビジネスの展開

当社では、環境改善の実績を活かし、環境ビジネスを始めました。具体的には、エネルギーコンサルタント事業(環境対策のご相談)や実際に当社に導入した省エネ機器等の販売事業を展開しています。

当社が提供する環境負荷低減商品は、LED照明等の省エネ・節電機器、生ゴミ処理等の廃棄物処理・リサイクル機器、排水環境負荷の低減剤、臭気や騒音対策、空気清浄機器等です。

LED照明等は、私が中国等の工場に直接訪問・買い付けし、お客様に格安で提供しています。



加工場内のLED照明之

貴社は、平成25年4月に鶏卵の「ハラル認証」を取得されていますが、取得の経緯や効果、今後の展望等についてお聞かせください。

①ハラルとは

ハラル (HALAL) とは、イスラム教の教えに基づき「許されたもの」という意味のアラビア語です。その反対は、「ハラム」で、「許されないもの」を意味します。イスラム教では、豚・アルコール等が禁止されています。食品の場合、これらの禁止されている物を含まないものがハラルとなります。

現在イスラム教の人口は、19億人、世界人口の約25%を占めています。ハラル食品の市場は、約60兆円ともいわれています。今後、イスラム教徒の人口は増加し、更に市場パイは増える予想しています。

②県内で唯一のハラル認証卵

ハラル認証を目指したきっかけは、来日した敬虔なイスラム教徒が、滞在した2週間、絶対に安全であるレタスしか食べなかった、という話を聞いたことです。この時、もっと多くの人に安全な卵を食べて欲しいと強く感じました。

平成25年4月にNPO法人日本アジアハラル協会から、鶏卵に関してハラル認証を受けました。両GPセンターが認証を受けているため、当社で生産した卵は、ハラル認証の卵と見なされます。

なお、温泉たまごと液卵は、製造過程でアルコールを使用するため、ハラル認証を受けていません。

ハラル認証を受けてから、国内のホテルから問合せが来るようになりました。背景に2020年に開催予定の東京オリンピックや国際化に対応しようという動きがあるためです。これは、当社の取引拡大に繋がる新たなチャンスであると確信しています。

また、茨城県を訪問する外国人観光客に対応するために、茨城県の観光振興の担当者にはハラルに関する情報提供等を行っています。



ハラルマーク

最後に、社内活動、倉持社長様の座右の銘、尊敬する人物等をお聞かせください。

社内活動として、2年に1回社員旅行を実施しています。この時、普段はあまり話す機会の無いパート社員さんともじっくり語り合うようにしています。社員の話に熱心に耳を傾け、お互いをよく理解し合う事で、安心して働くことが出来る環境づくりを進めています。

私が尊敬する人物は、前社長、現会長の父・新一です。父は、「大きな耳、小さな口、優しい目」を持っています。誰からも慕われる姿は、私の誇りであり、同時に手本となっています。

私は常に、世界の人が幸せになってほしい、と願っています。「何のために生まれてきたのか。人を喜ばせ、それを見て、嬉しいと思える人生でありたい」、「悲観主義者はすべての好機の中に困難を見つけるが、楽観主義者はすべての困難の中に好機を見いだす」という座右の銘を胸に、これからは「安全」で「味わい」のある卵を生産・販売して参ります。



倉持社長(写真右)と聞き手・木下康之

この度は、長時間にわたりまして貴重なお話を聞かせていただき、誠にありがとうございました。貴社の今後ますますのご発展をご祈念いたします。

聞き手／筑波総研 株式会社 取締役社長 木下 康之
文 責／筑波総研 株式会社 研究員 富山かなえ